

## あ と が き

ようやく水ぬるむ季節になりましたが、会員諸兄はいかがお過ごしでしょうか。

毎回、1月前後ドタバタして医会雑誌ができます。今号より、背文字を付けるなど多少模様替えをしました。家庭透析に関する別冊もありますので、ご一読下さい。

新潟県糖尿病性腎不全研究グループの研究成果で、糖尿病性腎不全治療の全体像が大まかに把握できたように思います。

腎疾患関連項目の調査で、現在治療を受けていない理由の44%が、医師から治療不要と言われたためとのこと、にわかに信じ難い調査結果ですが、検証も困難でしょう。ともあれ、継続受診勧奨システムは全国に普及すべきものではないでしょうか。なお、日本透析医会常務理事山崎親雄先生の助言に感謝申し上げます。

われわれがその到来を10数年前から予測し、危惧していた時代の変わり目、それを象徴するような社会現象が出て来ています。全国の会員の努力にもかかわらず、腎不全対策の実質的進展は未だ見られません。全国の日本透析医会支部は、地元選出国議員に臓器移植法制定を働きかけていただきたく、お願い申し上げます。

(広報委員長 奥田健二)